

都市再生の全工程支援型スマートシティ構築事業 (岡崎スマートコミュニティ推進協議会)

■ 都市課題

都市経営の高度化

計画段階での目標設定・効果測定の高度化の可能性
設計段階でのデータ活用が限定的かつ非効率的

■ 実証実験の概要・目的

- ①短周期PDCAの取組では、計画段階の目標設定・効果測定の高度化に向けて、スマートデータの分析による目標設定の要点抽出、目標項目・目標値の設定およびそれらの関係性整理を行い、目標設定～モニタリングの短期活用を試行した。
- ②土地利用促進の取組では、都市開発の計画・設計・施工の各段階の合意形成等にかかる作業の効率化・高度化に向けて、都市の3Dモデル構築・人流データ等と組み合わせた都市シミュレーションを行い、複数場面での活用試行を行った。

■ 解決方策

スマートデータの活用

- ①短周期でモニタリングが可能なスマートデータを活用したまちづくりの目標設定・管理
- ②都市開発の現場において、3Dデータや人流等の取得データを活用できる環境を整備

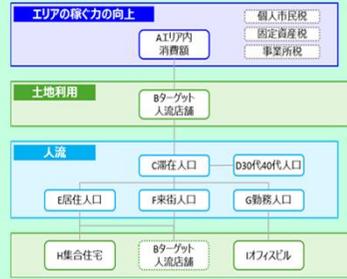
■ K P I

- (①②の取組ごとに下記KPIを設定)
- ・活用検証件数 各2以上
 - ・今後の活用希望割合 75%以上
 - ・活用案の創出件数 各2件

■ 実証実験の内容

< ① 短周期PDCA >

- ①データ収集：スマートデータ（携帯ビッグデータ、人流カメラデータ、クレジットカード決済データ）を分析→まちづくり会社と議論して抽出した消費傾向等をもとに集客ターゲット・重点化するべき消費行動を検討
- ②目標設定試行：エリアの稼ぐ力の向上、土地利用促進、人流増加を都市再生の目標として設定し、ロジックツリーで各項目の関係性を整理、スマートデータから目標値を設定
- ③短期活用試行：毎年実施するイベントでの目標設定→結果のモニタリングを試行・ターゲットとする来街者の回遊促進、消費額増加に貢献
- ④検証：②の目標項目・目標値については納得する関係者が多数みられ、関係主体での活用可能性を確認



< ② 土地利用促進 >

- ①データ収集：3D-LiDARデータを取得、PLATEAUデータを用いて3Dマップを構築、シミュレーション環境を整備
- ②活用試行：都市再生の各場面で活用試行
 - (1)構想現場：都市シミュレーション
→開発後の建物を再現し、開発構想に関する議論を支援
 - (2)設計現場：歩行者シミュレーション
→公共空間において、人流集中時でも必要十分な通路機能と滞留機能を確保するために、デザインの検証を実施
 - (3)施工現場：人流・滞留データ分析
→再開発工事に伴う規制が予定されている駅前エリアの歩行動線を分析し、対策を提案
- ③検証：市の事業担当や民間事業者の活用意向を確認
新規に予定されている別の再開発エリアでの活用意向有

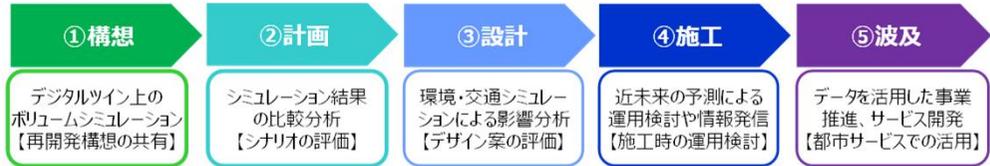


■ 実証実験で得られた成果・知見

①短周期PDCA：目標設定したスマートデータが施策に対して明確な感度を示すことが確認され、まちづくり主体とともにPDCAを短周期で回す見通しがあった。



②土地利用促進：社会実験ではできない複数ケースの空間活用検討といった、これまでにやりたくてもできなかった取組に対するニーズが発掘された。データだけではなく、分析や提案に係るサービス提供へのニーズが確認された。



■ 今後の予定

	R7	R8
①短周期PDCA	市編成予算に活用、中区画での目標設定	モニタリングダッシュボードの構築
②土地利用促進	データインフラの整備 各種シミュレーションの連携	土地利用主体へのデータおよびサービス提供